

## 2. 盲学校

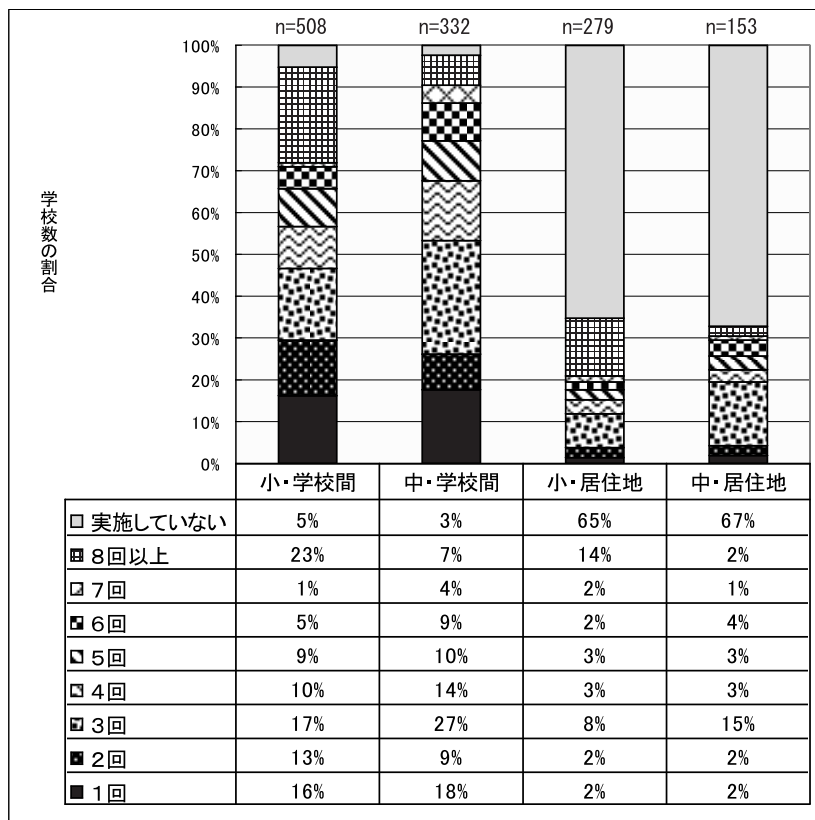
### (1) 交流及び共同学習の実施状況

#### ①実施状況

図Ⅱ 2-1 に、盲学校における交流及び共同学習に関し、学校間交流と居住地校交流の年間の実施回数を示した。

学校間交流については、小学部、中学部共に3回、あるいは1回の割合が高い。また、小学部の学校間交流では8回以上実施している学校の割合も高かった。

居住地校交流については、小学部では8回以上、中学部では3回の割合が高かったものの、依然として60%以上の学校では実施されていない。



図Ⅱ 2-1 交流及び共同学習の年間の実施回数

#### ②教育課程上の位置づけ

図Ⅱ 2-2 として、盲学校における交流及び共同学習の教育課程上の位置づけを示した。

学校間交流、居住地校交流共に「道徳」以外の「各教科」、「特別活動」が同じような割合で実施されている。また、「総合的な学習の時間」についても、20%程の割合で実施されている。「道徳」については、学校間交流よりも居住地校交流において実施されている割合が高かった。中でも、中学部の学校間交流においては、あまり実施されていない。それとは対照的に「総合的な学習の時間」の割合が他の形態に比べて、実施されている割合が高かった。

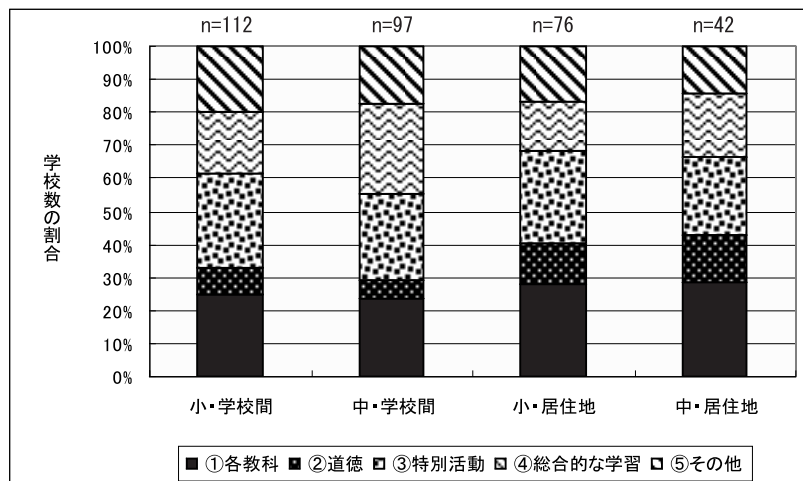


図 II 2-2 交流及び共同学習の教育課程上の位置づけ

### ③目的・ねらい

図 II 2-3 に盲学校における交流及び共同学習のねらいについて示した。

この項目については、「その他」を含む10の選択肢から、特に重要と考えられる事柄3つを選択してもらった。

その結果、学校間交流に関しては「②集団生活で社会性を培う」、「④より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培う」、「⑧盲学校について理解してもらおう」の3つが、他に比べて多く選択された。

居住地校交流に関しては、「①地域の一員であることを互いに認識する」、「⑤地域でのつながりや人間関係を形成する」が多く選択されている。中学部では、「⑥地域での生活基盤を形成する」が一定の割合で選択されている。

また、「⑦児童生徒について理解してもらおう」は、全ての交流形態において一定の割合で選択された。

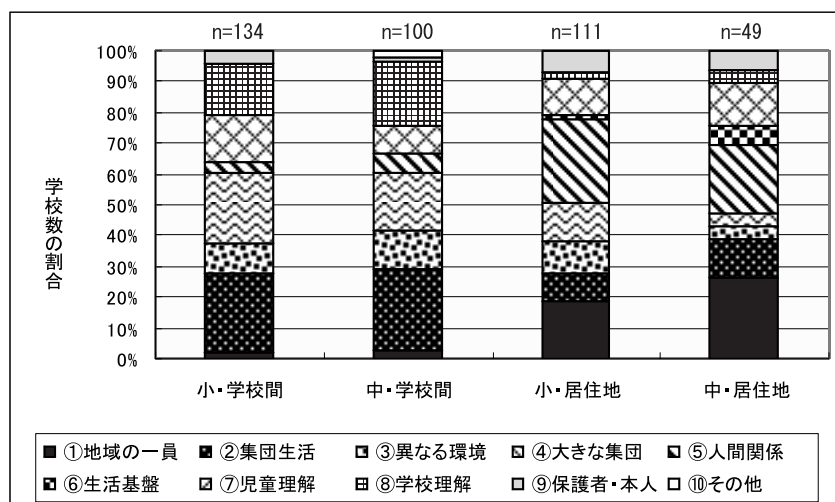


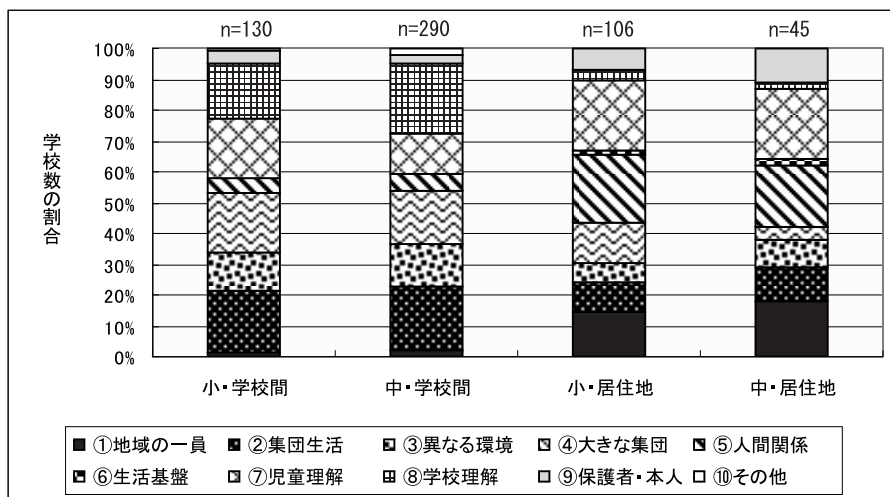
図 II 2-3 交流及び共同学習のねらい

#### ④ 成 果

図Ⅱ 2-4 に、盲学校における交流及び共同学習の成果について示した。これも、「その他」を含む10の選択肢の中から、あてはまる事柄3つを選択してもらった。

その結果、全般的には前項③の「交流及び共同学習のねらい」で選択されている事柄が成果としても挙げられていた。

学校間交流と居住地校交流とを比較した場合は、学校間交流においては「③集団生活で社会性を培うことができた」、「⑧盲学校について理解してもらえた」が高い割合で選択されたのに対し、居住地校交流においては、それぞれの事柄はほとんど選択されなかった。それとは対照的に、居住地校交流において「①地域に居住する一員であることを互いに確認できた」、「⑤地域でのつながりや人間関係を形成することができた」が高い割合で選択されていたのに対し、学校間交流においては、これらの事柄はほとんど選択されなかった。



図Ⅱ 2-4 交流及び共同学習の成果

#### ⑤ 課 題

図Ⅱ 2-5-a、図Ⅱ 2-5-b に、盲学校における交流及び共同学習の課題について示した。これは、「その他」を含む10の選択肢の中から、あてはまるもの全てを選択してもらったものを学部ごとと交流の形態ごとにまとめたものである。

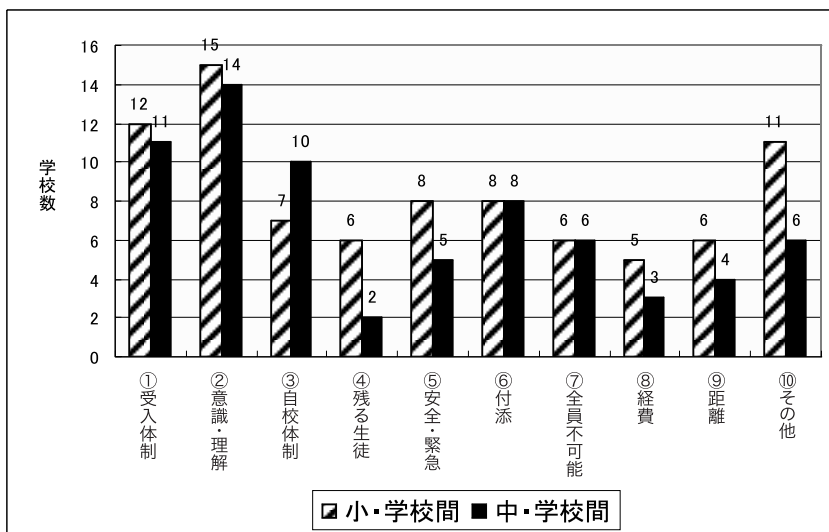
学校間交流については、小学部、中学部共に「①実施相手校の受け入れ体制について」と「②実施相手校の意識・理解について」が高い割合で選択された。

また、学部間で課題が異なる傾向もみとめられた。「⑤安全確保・緊急対応の問題」と「④学校に残る児童生徒の対応について」の2つの事柄については、小学部では課題として挙げられているものの、中学部においてはそれほどではなかった。それとは対照的に、中学部において課題として挙げられていた「③自校の体制について」は、小学部においては、それほど課題としては挙げられなかった。

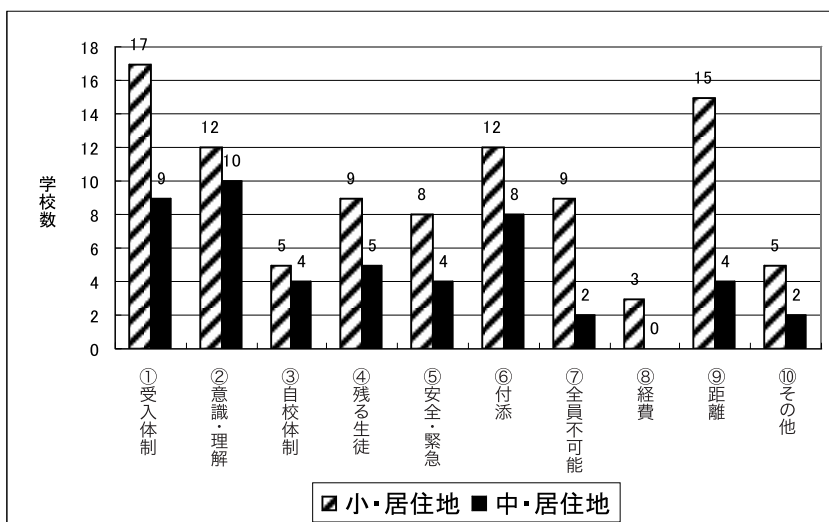
居住地校交流については、小学部において「①実施相手校の受け入れ体制について」、「⑨児童生徒の居住地域と学校との距離の問題」、「②実施相手校の意識・理解」、「⑥付

き添い(送迎も含む)の問題」の4つの事柄が高い割合で選択された。一方、中学部においては、「②実施相手校の意識・理解について」、「①実施相手校の受け入れ体制について」、「⑥付き添い(送迎も含む)の問題」の3つの事柄が高い割合で選択された。

また、学部間での傾向の違いとして、小学部で課題として挙げられた「⑨児童生徒の居住地と学校との距離の問題」、「⑦全員が実施できない」の2つの事柄については、中学部においては、あまり選択されていなかった。



図Ⅱ 2-5-a 学校間交流における課題



図Ⅱ 2-5-b 居住地校交流における課題

## ⑥交流及び共同学習を実施していない理由

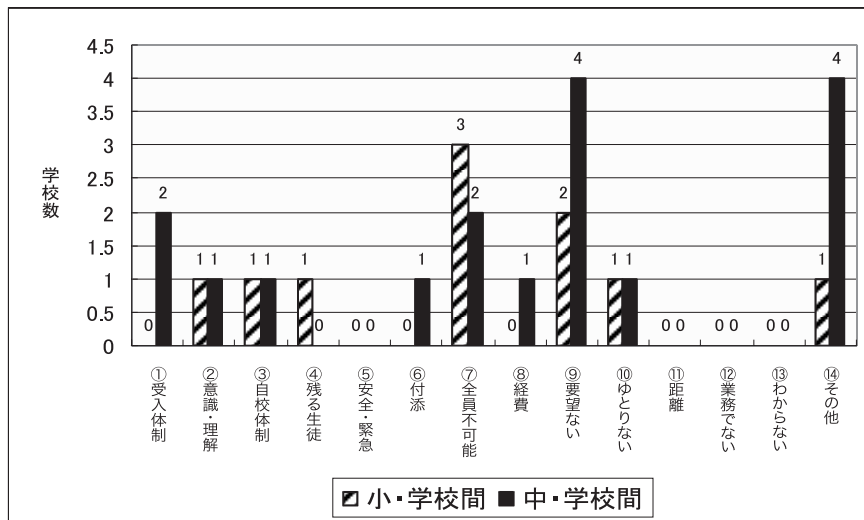
図Ⅱ2-6-a、図Ⅱ2-6-bに、盲学校における学校間交流及び居住地校交流を実施していない理由について示した。これは、「その他」を含む14の選択肢の中から、該当するもの全てを選択してもらったものをまとめたものである。

学校間交流については、小学部、中学部共に全体的に少数の回答となっている。そのうち、小学部については、「⑦全員が実施できにくい」、「⑨保護者や本人からの要望がない」が多く選択されている。

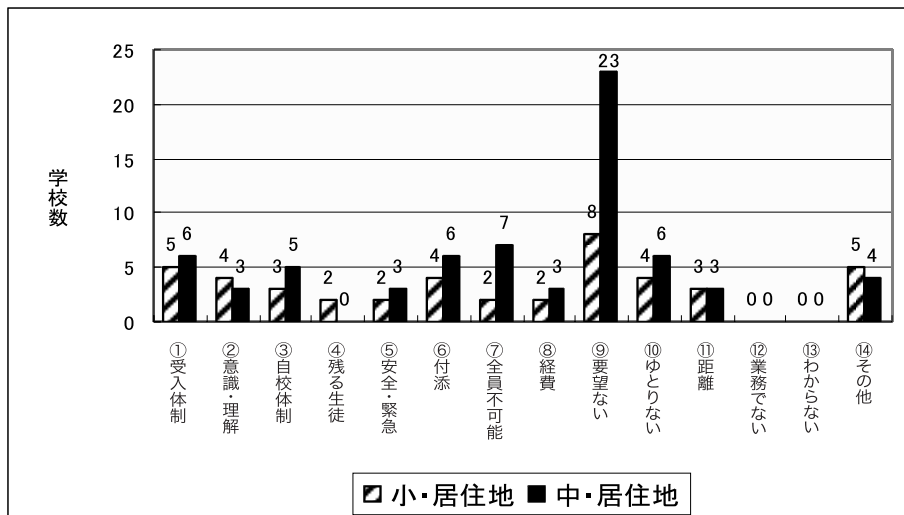
中学部については、「⑨保護者や本人からの要望がない」が最も多く選択されており、これに「①実施相手校の受け入れ体制の問題」、「⑦全員が実施できにくい」が続いている。

次に居住地校交流については、小学部の回答総数が少なく、どの事柄もまんべんなく選択されている。その中でも多く選択された事柄は、「⑨保護者や本人からの要望がない」、「①実施相手校の受け入れ体制の問題」であった。

中学部においては、小学部と同様に「⑨保護者や本人からの要望がない」が他の事柄に突出して多く選択されている。これに続いて「⑦全員が実施できにくい」、「⑩ゆとりがない(忙しい)」が選択されている。



図Ⅱ2-6-a 学校間交流を実施していない理由



図Ⅱ2-6-b 居住地校交流を実施していない理由

## (2) 学校間交流における児童生徒への配慮の実際

次の3つの条件に合う児童生徒（以下Aさん）を選び、その児童又は生徒に対する交流先での配慮の実際について記述してもらった結果をまとめた。3つの条件とは、（平成16年度に通常の学級と交流し、教科学習の経験がある在籍児童生徒であること、最も高学年であること、障害種別や程度は問わないことである。

各学校における交流の実態は様々であり、重複する障害の有無やその種類によって、配慮が異なる傾向が見られたので、障害種別ごとに自由記述を整理し、特徴的な回答内容を抜粋して挙げた。

### ① Aさん自身への配慮

- ・ Aさんが得意な教科で交流を実施した。
- ・ 教科書、資料の点訳をおこなった。
- ・ 図表の立体コピーを準備した。
- ・ 資料の拡大をおこなった。
- ・ 板書事項を読み上げてもらった。
- ・ 大きな文字の板書をしてもらった。
- ・ 手引き等のためのお世話係をつけてもらった。
- ・ 盲学校教師が補助に入った。

### ② 施設設備など環境への配慮

- ・ 指示の音が聞こえるように座席を前に固定してもらった。
- ・ 付き添いの教師が側につけるように机の位置をはじに固定してもらった。
- ・ 弱視レンズが使用できるように、前から2列目の場所に机を配置してもらった。
- ・ 下駄箱やロッカーに点字で名前を貼付してもらった。
- ・ 活動場所の安全確保(障害物等がないように) してもらった。
- ・ 傾斜机、個別照明の準備をしてもらった。

### ③ 学級の他の児童・生徒への働きかけなどを通して行う配慮

- ・ 視覚障害、あるいはAさんについて、事前に学級で説明してもらった。
- ・ 教員研修会を実施してもらった。
- ・ 紹介ビデオや手紙を事前に送付してもらった。
- ・ 名前を呼んでから話しかけること、手引きの仕方、弱視レンズについて等、関わり方について配慮してもらった。
- ・ 授業中、挙手の際に声を出してもらい、板書事項を説明してもらいなどの配慮をしてもらった。
- ・ 授業パートナーが1対1で対応してくれた。
- ・ Aさんが名前を覚えられるように少人数の学習集団にしてもらった。

### ④ その他

- ・ 特別扱いをせず、健常児と同じように対応してもらった。

- ・教科書が違うので、事前に学習内容・進度等についての打診があった。
- ・支援してくれる児童生徒を固定してくれた。

### （３）居住地校交流における児童生徒への配慮の実際

学校間交流における児童生徒への配慮の実際と同様の条件に合致する児童又は生徒 1 名（以下 B さん）を選び、その児童生徒に対する交流先での配慮の実際について記述してもらった結果をまとめた。

各学校における交流の実態は様々であり、重複する障害の有無やその種類によって、配慮が異なる傾向が見られたので、障害種別ごとに自由記述を整理し、特徴的な回答内容を抜粋して挙げた。

#### ① B さん自身への配慮

- ・拡大教材、拡大教科書の準備をおこなった。
- ・傾斜机、単眼鏡、ルーペを使用した。
- ・見やすいマス目のノートを準備した。
- ・教科書の点訳をおこなった。
- ・B さんの得意な学習内容による交流の実施してもらった。
- ・年間を通じて同一学級における交流を実施してもらった。
- ・授業中に発言の機会を保障してもらった。
- ・大きな文字で板書してもらった。
- ・盲学校教師が補助に入った。

#### ②施設設備など環境への配慮

- ・靴箱、ロッカーの場所の固定をしてもらった。
- ・段差が分かる色を塗布してもらった。

#### ③学級の他の児童・生徒への働きかけなどを通して行う配慮

- ・手引き、声のかけ方、安全面等について事前に説明(学級・全校)してもらった。
- ・所属するグループ、ペアを固定してもらった。
- ・授業中に B さんが活動できる場面を設定してもらった。

#### ④その他

- ・交流学習の間、盲学校担任も学級に常時出席し、必要に応じて個別の支援を行った。
- ・3 年間交流を継続したことで、相手校の担当の先生より寄せ書きの卒業証書をいただいた B さんは感激していた。

### （４）学校間交流についての意見等

盲学校における学校間交流に対する自由記述を次のようにまとめた。

### ①交流及び共同学習の意義

- ・大きな集団の中で他校の同学年の児童との関わりにより社会性を養う。
- ・盲学校の生徒や障害について、相手校に理解してもらう好機となる。

### ②交流及び共同学習の成果

- ・長期間交流を継続することにより、相手校の教育活動の一つとして位置付いているとともに、障害者理解についても深まっていく。したがって、友人同士としての交流になり、対等な交流活動を行うことができる。
- ・同年齢の大きな集団の中で活動することにより、生き生きと活動することができ、社会性を身に付けることに役立った。

### ③交流及び共同学習を実施するに当たり必要なこと、配慮すべきこと

- ・児童の負担が過度にならないようにすること。
- ・相手校の意識や理解が重要である。
- ・無理のない計画を立てること。
- ・交流回数、引率、経費等について事前に十分に話し合いを持つこと。

### ④交流及び共同学習の実施上の課題、及び実施を困難にしている要因

- ・盲学校側の少人数化、障害の重度・重複化により十分な交流活動が実施できない。
- ・交流内容の形骸化。
- ・相手校との進度の差、及び事前準備。
- ・表面的な交流にとどまり、深まらない。
- ・障害の多様化等により、同一の活動に参加できなくなっている。

## (5) 居住地校交流についての意見等

盲学校における居住地校交流に対する自由記述を次のようにまとめた。

### ①交流及び共同学習の意義

- ・将来の生活の場になるであろう地域とのつながりを保つこと。
- ・将来の生活の場である居住地の児童生徒との関わり場の確保と、居住地の人たちに視覚障害について理解してもらう好機となる。

### ②交流及び共同学習の成果

- ・小学部、中学部共に記述なし。

### ③交流及び共同学習を実施するに当たり必要なこと、配慮すべきこと

- ・相手校の受け入れ体制を含め、事前の打ち合わせを十分に行うこと。
- ・相手校の意識や理解が重要である。
- ・可能であれば全員の実施が望ましい。



④交流及び共同学習の実施上の課題、及び実施を困難にしている要因

- ・学年が進むにつれて、学習進度に差が出て実施が困難になっていく。
- ・保護者は学校側の引率を要望するが、補欠体制等の問題で希望に添いかねる。
- ・点訳などの事前準備が課題である。
- ・居住地校との距離が遠い。
- ・交流回数を決める際の目安がない。
- ・実施の可否は相手校次第である。
- ・保護者の思いが先行し、生徒本人が十分に目的意識を持って臨んでいない。
- ・高校受験が近づいてくると、相手校の受け入れが微妙になってくるようだ。

(田中 良広)